

品種	作付面積	単収	地域の単収との差(地域の平均単収)
ふくおこし	5.2ha	742kg/10a	66kg/10a(676kg/10a) [※]

※作柄調整後の地域の平均単収

【経営概況】

- 社員4名、臨時雇用2名
- 水稻を中心に、飼料作物(子実用トウモロコシ)、野菜(ブロッコリー、かぼちゃ等)を組み合わせた複合経営を行う。

【作付品目】

- 主食用米 コシヒカリ 34.8ha
- 飼料用米 ふくおこし 5.2ha
- 子実用トウモロコシ 5.6ha
- 野菜(ブロッコリー・かぼちゃ等) 1.4ha

【取組のきっかけ】

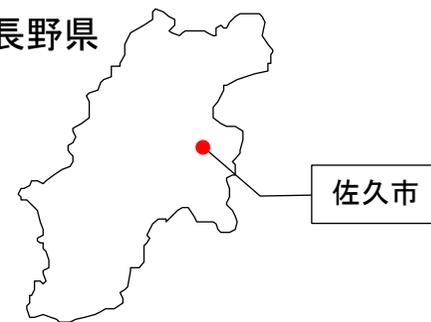
- 地域内での水田転作の達成率が低い中、大規模農家として転作に取組むことで、地域への貢献になればという思いから、飼料用米の作付けを始めた。
- 品種は、長野県育成品種で県内での栽培適性があり、耐倒伏性に優れる「ふくおこし」を選定。

【取組概要】

- 生産面においては、①育苗ハウス内で湛水し、自然落水の度に再湛水する半プール育苗による水管理、②優良種子の購入で種子伝染性病害の発生リスクを抑え、苗箱施薬剤の適正な使用で生育前半における防除の手間の軽減、などの工夫によりコスト低減を図っている。
- 経営面では、①収穫後の乾燥調製をJAに外部委託し、フレコンで保管後にJA全農長野への販売、②水稻、飼料作物、野菜による輪作を実施し、水田の難防除雑草を抑制、などの取組によりコスト低減を図っている。
- 稲わらを畜産農家へ供給しているほか、地域における次世代の担い手育成を重視しており地域の担い手団体の活動等に積極的に参加し地域に貢献している。また、大学や県の実証試験にも協力し、水田農業の技術開発に努めている。
- 今後は更なる低コスト生産を進めるため、鶏ふん主体の施肥体系や、xarvio(栽培管理支援システム)を活用した、可変施肥技術の導入を予定している。



長野県



佐久市